

S331L サイトマスタのご紹介

サイトマスタはケーブル&アンテナシステムのVSWR、ケーブルロス、DTF（障害位置）の測定が可能です。S331L サイトマスタは、9代目のサイトマスタです。S331D サイトマスタの後継器です。



形名	ケーブルアンテナアナライザ
S331L	2 MHz~4 GHz

S331L サイトマスタ

●S331Lの特長

● InstaCal™モジュール内蔵

InstaCal™を本体に内蔵しており、校正モジュールとの接続はつなぎ替えなく1回で校正が可能



InstaCal™モジュール



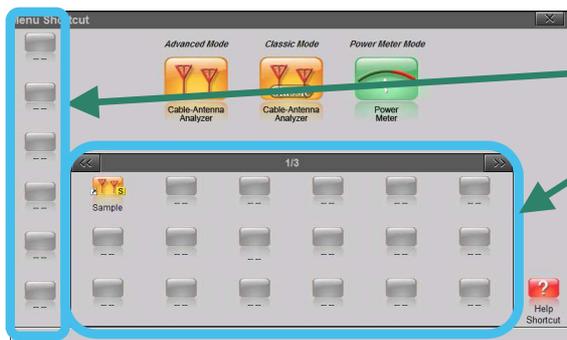
※校正の接続ミス、時間の短縮に効果的

● 周波数を変更しても校正状態を有効にするFlexCal™機能

周波数帯の異なる測定も1回の校正でカバーするため効率アップに効果的

● メニュー画面の設定条件呼び出し用アイコン

内部に保存した測定条件のアイコンをメニュー画面に作成し、メニュー画面からワンタッチで呼び出し可能



ショートカットアイコン
(最大60個作成可能)

※保存した設定条件をワンタッチで呼び出すことで効率アップと操作ミスの削減に効果的

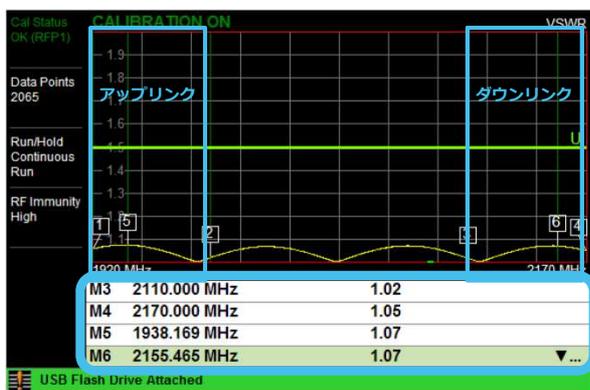
- 測定結果のファイル名入力もスムーズ
言語入力もキーボードで、さらにあらかじめ編集したクイックネームで頻繁に使用される用語もワンタッチ入力可能



EZ (イージー) ネーム
(ユーザ編集可能)

※長いファイル名の入力もスムーズに、データ管理の際のファイル名追加作業減少に効果的

- アップ/ダウンリンク周波数帯を同時に測定してマーカオプション機能を使用してアップ/ダウンリンク周波数内で最大値/最小値を検出可能

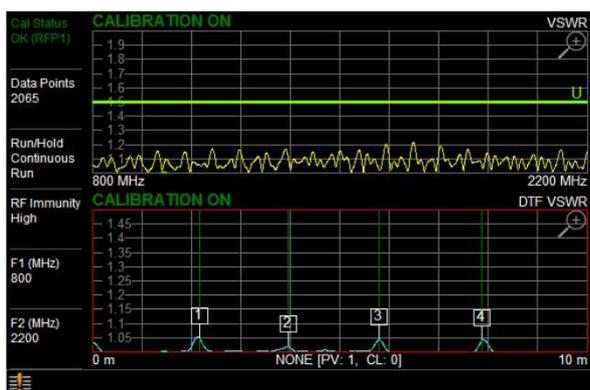


M1をアップリンク下限周波数に M2をアップリンク上限周波数に M5のマーカオプションを利用してM1とM2の間で最大/最小値の検出が可能。

M3をダウンリンク下限周波数に M4をダウンリンク上限周波数に M6のマーカオプションを利用してM3とM4の間で最大/最小値の検出が可能

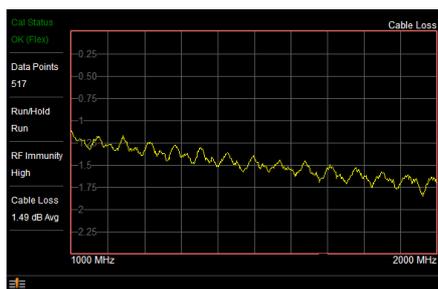
※アップ/ダウンリンク周波数帯を同時に測定される方の効率アップに効果的

- デュアル画面
例) VSWRとDTF (障害位置検出) を同時画面で表示可能

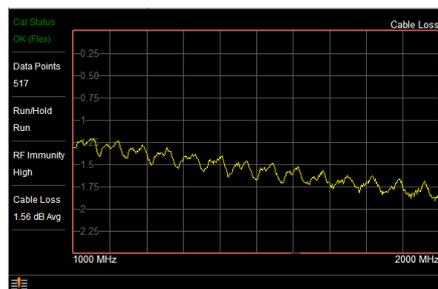


VSWRとDTFを使用した障害位置検出、
または、ケーブルロスとDTFを使用した電気長測定が
1回の測定で可能

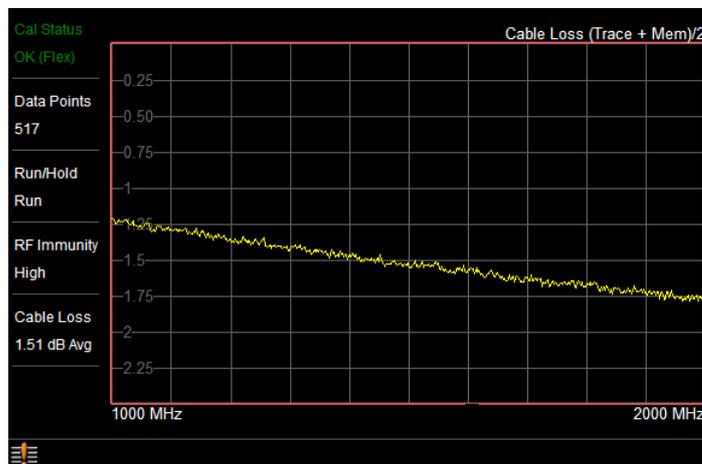
- 給電線ロス測定のためのOpen/Short法を測定器本体で実施可能
給電線ロス測定時のOpen接続時の測定とShort接続時の測定を平均化



Open接続時の損失



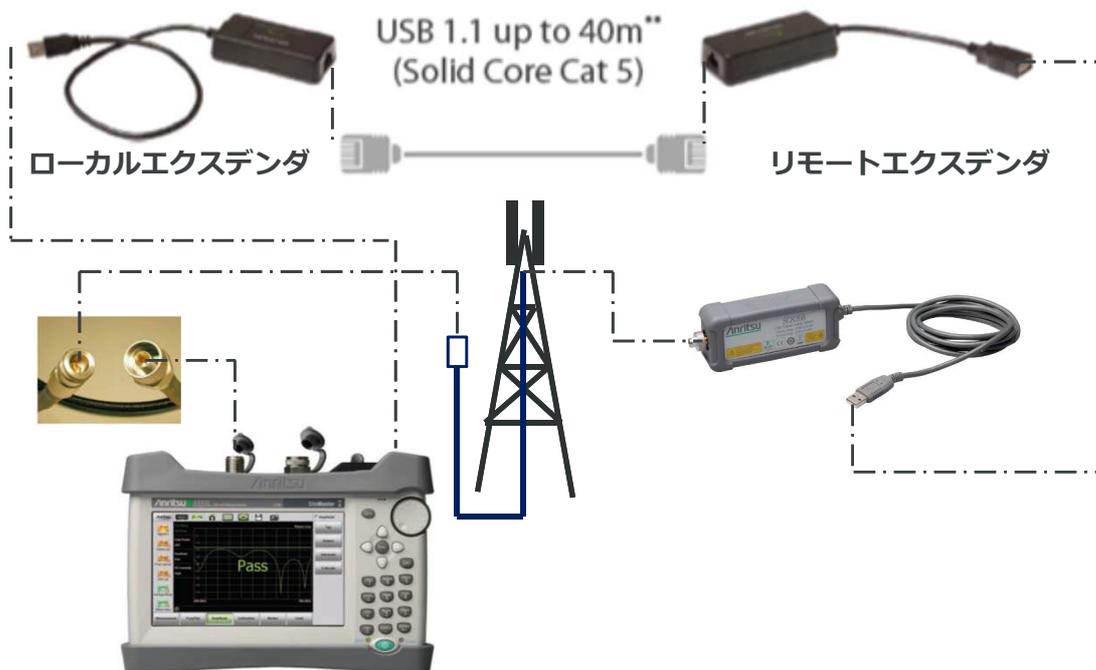
Short接続時の損失



OpenとShortの平均化

※高所の作業でもPCを用いず平均化を実現することで安全性を確保可能

- 外部USBセンサを使用して伝送特性測定が可能



※2000-1717-R USB延長キットを使用して最長40mの伝送特性の評価が可能

- 光コネクタ端面の検査が可能
G0306A 400倍ファイバ스코ープを接続してIEC 61300-3-35規定の光コネクタ端面の検査が可能



光コネクタ端面検査例



G0306A 400倍ファイバ스코ープ

※RRH等の光ファイバを張り出し基地局等で使用する光コネクタ端面の検査が可能